

皆様、あけましておめでとうございます。山口県教職員団体連合会委員長の島村暢之です。

昨年4月に県教連委員長に就任し、怒涛の如く過ぎていった2017年。酉年だけに、大空を舞う鳥のように優雅にと思っていましたが、なかなかそう上手くはいかず…。そのような中でも、何とか前に進むことができたのは、会員の皆様方の支えがあったからこそです。本当にありがとうございました。今年は戌年。土佐犬の如く、泰然自若をモットーに引き続き任務を遂行したいと思います。本年もよろしくお願いいたします。

さて、2018年スタートしたばかりの1月3日から7日の5日間。「日本教師中華民国訪問研修」の一員として、台湾を訪れました。この訪問研修は今回で33回目を数える歴史あるもので、全日本教職員連盟の郡司 隆文委員長を団長に30名の教職員が参加しました。

台湾滞在中は、台湾省外交部・教育部（日本での外務省・文部科学省）や小中学校を表敬訪問し、その際に台湾省関係者や教職員等と懇談する機会を得ました。

【台湾省外交部にて教えていただいたこと】

- ・ 正式な国交というものはないが、教育・文化・経済の面での交流が盛んである。
- ・ 教育、文化の面においては、日本の82の地方公共団体が台湾と姉妹提携している。
- ・ 経済面では、日本は台湾の第3番目の貿易パートナーであり、台湾は日本の第4番目である。 等

日本台湾交流協会の調査によると、台湾の約56%の方々が最も好きな国として日本を挙げていました。これは後に続く中国の6%、アメリカの5%を大きく上回っています。その理由として約73%の方々が『いざというときに相互援助できる』ことを挙げていました。これは、記憶に新しいところで東日本大震災や台湾南部地震の際の台日の援助活動があるのですが、根底には“八田 興一”という一人の日本人の存在があったからこそなのです。【「世界が驚いたニッポン!スゴ〜イデスネ!!視察団」(平成30年1月13日 Yab 放送)でも取り上げられていたので、御覧になられた方も多と思います。】

八田氏は、明治時代に活躍した土木技師で、当時まだ発展途上であった台湾に渡り、都市整備や治水事業に尽力された方です。中でも、約10年の歳月を費やして完成させた烏山頭（うざんとう）ダムは当時東洋一の規模を誇り、そこで取り入れられた「嘉南大圳（かなんたいしゅう）」という灌漑システムによって、水不足に悩まされていた15万haの嘉平野が豊かな穀倉地帯へと生まれ変わったのです。李登輝元総統はその偉業を称え八田氏のことを「台湾の大恩人」と称しました。

会員の皆様！是非、八田氏のことをお調べいただき、子供たちに紹介してください。道徳の教材にも最適だと思います。

【台湾省教育部にて教えていただいたこと】

- ・ 2008年から9年一貫教育を進めてきたが、2019年から12年一貫教育を進める。
- ・ 日本同様に教科書検定が存在するが、その中から現場の教員が子供のレベルに合わせて選ぶ。
- ・ 年齢と勤務年数の合計が、85になったら定年退職の権利を得る。(必ず退職ではないようです) 等

英語教育について質問したところ、「授業は基本的には担任が行っている。」「担任はライセンスを取るために自己修養に努めている。」との回答がありました。これについて、表敬訪問した学校の先生方にもお聞きしたのですが、同様の回答でした。日本においても、来年度から新指導要領の本格実施に向けた移行期間がスタートとすることを伝えると、「お互い頑張りましょう！」とエールをいただきました。

「日本教師中華民国訪問研修」の経験を今後の教員生活に生かそうと強く思っています。特に、八田氏の教材化については、現場に復帰した時を見越して、今から準備しておこうと思います。

平成30年1月

山口県教職員団体連合会（県教連）

委員長 島村暢之